

協議会の今後の進め方としては、①推進協議会に専門委員会を置いて検討する（がん研究、小児がん、緩和ケアの3課題に決定）、②推進協議会にて集中審議を行う、③健康局長の諮問機関等を設置する、の3つの方法で対応することが概ね了解されたが、②、③でどの課題を検討するかについては、未決のままである。次期基本計画策定までの限られた時間を、有効に使うことが望まれる。

一方、IACR2010の直前10/8に、第3回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会が開催された。同日午前中には厚労省がん対策推進室が主催する全国がん対策関係主管課長会議が開催されたが、午後からの上記連絡協議会は国立がん研究センターの主催である。

種々の報告事項の後、検討課題として、①国立がん研究センターとがん診療連携拠点病院との連携の強化について、②院内がん登録2008年症例全国集計の公表方針について、③緩和ケア研修会について、④がん対策情報センター診療支援機能について、⑤臨床試験部会の設置について、が討議された。②については、昨年に引き続き、病院名付きで施設別集計を公表するかどうか焦点であった。出席者の一部から時期尚早であるとの意見もあったが、原則として病院名付きで施設別集計を公表することが合意された。今後、施設別データを各病院に還元し、施設別集計データを検討していただいた上で公表の可否を確認し、報告書作成を進めていく予定である。

#### 編集後記

今回は、昨年10月のIACR2010関連記事を中心に編集させていただきました。様々な不安材料がありましたが、ホスト国として一定の役割を果たすことができたことは、日本のがん登録関係者の結束力の強さの賜物であり、誇りにできるイベントではなかったかと思えます。とはいえ、お1人だけ異色の内容となっている大島先生のご指摘の通り、国内的な状況が一気に好転したわけでもなく、依然として大きな問題が山積しています。国立がん研究センターは、ここしばらくの間、大きな変革の時期を迎えることが予想されますが、がん登録の制度面においても世界に向かって恥ずかしくない体制を整備すべく、すべての関係者の方々の一層のご協力をお願いします（TS）。

IACR2010横浜は、ヨーロッパ以外の地域で開かれたIACR総会としては（円高にもかかわらず）、参加国、参加者数、発表演題数とも数多く、日本の開催国としての実力が発揮されたものと思えました。また、日本の若いがん登録関係者、研究者の優れた発表が目立ち、少なくともアジアの中では日本が、がん登録・記述疫学の面でアジアをリードしていく気概を持ち続けたいと思えました（HT）。

#### 2011年 関連学会一覧

2011年

6月20-21日	日本がん疫学・分子疫学研究会（第34回） 日本がん予防学会（第18回）	京都市 京都府立医科大学 広小路キャンパス
9月14-15日	地域がん登録全国協議会学術集会（第20回）	千葉市 千葉大学けやき会館
10月3-5日	日本癌学会学術総会（第70回）	名古屋市 名古屋国際会議場
10月11-13日	国際地域がん登録協議会学術総会（IACR） （第33回）	Balacava, Mauritius
10月19-21日	日本公衆衛生学会総会（第70回）	秋田市 秋田県民会館、秋田アトリオン 秋田キャッスルホテル ほか
10月27-29日	日本癌治療学会学術集会（第49回）	名古屋市 名古屋国際会議場

発行 特定非営利活動法人 地域がん登録全国協議会  
Japanese Association of Cancer Registries 理事長 津熊 秀明  
(事務局) 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-2-14 日本橋 KN ビル 4F  
Tel : 03-5201-3867 Fax : 03-5201-3712  
E-mail : office@jacr.info URL : http://www.jacr.info/